

第62回 食品新素材研究会における研究成果報告

ケストースの生理機能に関する共同研究成果が、2017年2月3日（金）に開催された第62回 食品新素材研究会にて発表されました。

[発表日]

2017年2月3日（金）

[演題]

「結晶オリゴ糖ケストース ～その多様な機能性の紹介～」

[発表者]

平野 勝紹（物産フードサイエンス(株) 研究開発センター）

[発表概要]

本講演では、昨年弊社より上市したケストースによる乳酸菌の増殖効果、乳幼児アトピー性皮膚炎への影響、アレルギー性鼻炎への影響について報告する。

ケストースは、他のプレバイオティクスに比べ*Lactobucillus*属を優位に生育させ、また、フルクトオリゴ糖の中で最も良好な資化性を示した。その時の乳酸生成量は他のプレバイオティクスに比べ最も高い値を示した。このことから、ケストースは、*Lactobucillus*属の生育を促す有用なプレバイオティクスであることが示された。

乳幼児アトピー性皮膚炎においては、ケストース摂取により優位な改善が見られ、また、腸内酪酸産生菌である*Feacalibacterium prausnitzii*に顕著な差が見られた。ケストースは、*F. prausnitzii*を優位に増加させたことから、これら有用菌の産生する、酪酸を初めとした短鎖脂肪酸などの有用物質がアトピー性皮膚炎改善に何らかの影響を示すと考えられた。アレルギー性鼻炎においては、ケストース接種により鼻炎症状に優位な改善が見られ、また、使用薬物の弱化を可能とした。

これらの結果から、ケストースは、腸内有用菌を増加させ有用菌の生産する各種有用物質が様々な疾患に対する改善効果を生むことが示唆された。有用物質による疾患改善効果の経路の解明に期待がもたれる。

[お問い合わせ先]

物産フードサイエンス株式会社 研究開発センター

TEL : 0562-55-1629